

① 昭和36年度の事業計画	2
② 地熱開発調査について	4
③ 人工ダイヤモンド①	8
④ 滯英2年の生活—3—大学	11
⑤ 日向灘地震を見る	18
⑥ ジャワ東北部とマツラ島の旅	19
⑦ タイ地質調査所	22
⑧ 各部課を尋ねて10	24

表紙の写真

立岩 本州路④

「立岩」を尋ねて羽越本線 <sup>いらがわ</sup>五十四駅に降りたのは2年も前のことである。裏日本特有の暗雲に押えつけられ ガクガクといなかのバスにゆられながら 暮坪という部落にかかるころ この立岩が ぶ愛想な海岸線にアクセントをつける。これは この付近一帯に分布する玄武岩が海しょく作用により取残されたものである。

断層・節理などの割れ目によって破壊され この様な形になったものであろう。緻密質で独特な黒味を持つ玄武岩の肌に白波が光っていた。

キャノン 50mm F1.8 f 8 125分の1秒  
ネオパン SS D76 フジプロ F-3 コレクター

# 昭和36年度の事業計画

わが国経済の広はんな発展に伴う 国土の高度利用・開発・保全に対して **地質調査所** は 地質学・地球物理学・地球化学などを主とする総合的な技術機能をもつ唯一の機関として 国の経済発展のために基礎資料を提供すべき役割が 近年急速に増大してきている。

このような事態に対処して 調査・研究体制をさらに強化するとともに 各方面にわたる調査・研究を推進し 年々多大の成果をあげてきた。

昭和36年度においては さらに一層の成果をあげるため 次のような調査・研究計画を予定している。

・ 特別研究費等による調査・研究	(件数)
地熱開発調査・研究	2
島原半島周辺海陸地帯の総合調査・研究	6
天然ガス調査・研究	6
構造性ガス調査・研究	6
炭田ガス調査・研究	6
物理探査新技術に関する調査・研究	4
工場廃水の地下還流試験調査・研究	4
工業用地下水源の保全等調査・研究	12
特定地域5万分の1地質図幅調査・研究	12
ドロマイト資源調査・研究	6
低品位鉄鉱調査・研究	16
新潟地盤沈下調査・研究	4
工業地帯地下構造調査・研究	2
核原料物質の調査・研究	36
・ 経常研究費等による調査・研究・編集	(件数)
5万分の1地質図幅調査・研究	23
応用地質調査・研究	2
石炭調査・研究	13
石油調査・研究・編集	7
金属および硫化鉱調査・研究	16
非金属鉱床の調査・研究	13
物理探査、測量、地球化学等の研究	17
特殊地質図等の編集	8
中小鉱山技術指導相談業務	多数

以上の多くは 前年度からの継続研究であるが **構造性ガス**と**工業地帯地下構造**の調査・研究は 本年度から新しくとりあげられたものである。

**構造性ガス** は新潟地区における例のように 水溶性ガス採取に伴う地下水の大量くみあげが 地盤沈下の原因の1つとして考えられ その採取規制が強化されつつある折から これにかわる天然ガス資源として その開発利用が重要視されている。

**工業地帯地下構造**の調査・研究は 臨海部などに新しく造成される工業地帯および既設の工業地帯の健全な発達を促進するため これらの地帯の地下構造を明らかにするとともに 港湾・堤防などの公共事業に基礎資料を提供しようとするものである。

また 従来からの継続研究の主要なものの新しい方向としては **地熱調査**は松川地区の地熱の実体の究明につとめるとともに 新しい型の地熱として伊豆大島をとりあげた。 **海陸地帯総合調査**は 36年度から計画の1部は 第二期計画の関門地域の調査・研究に突入し また 物理探査新技術に関する調査研究は **海上物理探査**(スパーカー・核磁力計)の本格的調査を行なうほか **新潟地区の地盤沈下**に関する調査研究も 35年度実施した水圧入試験が 地下水位の低下の回復にかなりの成果があったので この成果の拡大を計る。 他の調査・研究も35年度の成果に基づいて 資源と国土の合理的開発利用と保全のために さらに有効な基礎資料を得るべく別図のような調査・研究が予定されている。(企画課)